

自然と話そう、人と話そう!

安威川ニュース

安威川ダムの上流部「竜仙峡」におけるファンづくり会の活動
ダム周辺の豊かな自然環境を守り継ぐために

安威川ダム建設の進捗状況 / ダムの機能と役割について
安威川ダム「堤体盛立」が完了しました

安威川ダム周辺整備事業を、みんなで考え、実践する
ダムを活かした公園づくりワークショップ

VOL.9

令和4年(2022年)2月号

TALKS!
AIGAWA



安威川ダムファンづくり会では、「ダム」と「地域」と「人」をつなぐ、さまざまな活動を推進させていきます。



「山のベンチ」に身を委ねて
竜仙峡の未来像をイメージする。

竜仙峡の河川沿いに、深い木々に包まれた幻想的な空間が広がっています。この美しい場所と周辺の豊かな自然環境を守り継ぎ、次世代の人たちの貴重な地域資源として、どのように活用していけばよいかを、地元で暮らす方々をはじめ、多様な分野の人たちがアイデアや意見を持ち寄り、社会実験などを通じて、さまざまな可能性の検証を行っています。「山のベンチ」は、そこに、ゆったりと腰掛けて、川のせせらぎや木々の触れ合う音色、鳥たちのさえずりに耳を傾け、自然の恵みを肌で感じながら、安威川ダム周辺の未来像を思い描いていただくためのシンボリックなプロダクトとなるよう考案されました。

「山のベンチ」は、「間伐材の活用による森林保全プロジェクト」から生み出されました。設計を手がけたのは「河上友信空間設計事務所」。日本は「小径木文化」と呼ばれ、間伐で取れる細い木でもうまく使って大きな建物を造ってきました。これは森林を守ることに繋がっています。この日本独自の建築的文化を現代的に解釈し、デザインに取り入れています。靴を脱ぎ、あぐらをかいて寛げる大きな座面は、まるで縁側のような使い心地。現在、竜仙峡に三脚、安威川ダム展望広場に一脚が設置されています。今後は、山間部をはじめ、市街地など、さまざまなエリアに展開していく予定です。

「間伐材の活用による森林保全プロジェクト」

茨木市北部・里山周辺地域に広がる美しく豊かな森林は、近年、林業を営む人々の減少によって「森の手入れ」が行き届いていない状況です。安威川ダムファンづくり会は、2016年より「間伐材の活用による森林保全プロジェクト」を発足。日々、森を守るための活動を続けておられるNPO法人、森林ボランティアの方たちをサポートするとともに、間伐材を活用したモノづくりを実践し、多くの方々とつながっていくことで、森を守るための持続可能な「仕組み」をつくることを目指しています。

安威川ダムの上流部
美しい山々と溪流が織りなす
絶景のロケーション「竜仙峡」。

安威川ダム建設予定地の上流部、美しい山々と溪流が織りなす絶景のロケーションに包まれた「竜仙峡」は、かつて「竜仙閣」という旅館もあり、釣り人や川遊びなどを楽しむ「親水空間」として賑わった場所。安威川ダムファンづくり会では、周辺整備事業にともない、安威川流域の利活用、環境保全や、維持管理について考え、さまざまな活動に取り組んでいます。



清掃活動の場は、ダム湖の完成後も、その姿を現状のまま残すこととなる竜仙峡、そして、安威川の支流である「下首羽川」。清掃が終わると、みんなで楽しく昼食タイム。地元で収穫された新鮮な野菜がたっぷり入った「豚汁」と平飼い自然卵を使った「たまごかけごはん」を美味しくいただきながら、地域の課題や今後の活動展開について意見交換を行いました。



動植物への配慮と保護を見据え、
実態調査・予測分析、データベースづくりを行い、
ダム周辺における環境保全につなげていきます。

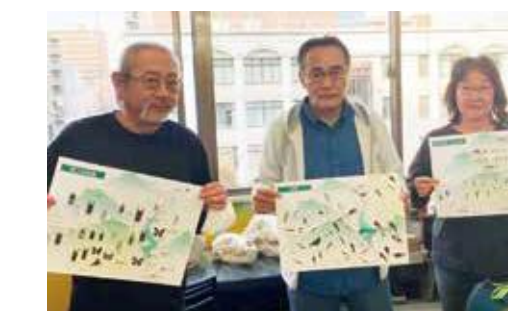


自然環境を守り継ぐための活動を通じて
地域づくりの関係人口を増やしていく。

令和3年10月22日、北部活性化支援グループ「RISE」代表の田中春樹さん、地元茨木に校舎を構える立命館大学の学生をはじめ、安威川上流漁業協同組合、地元で暮らす方々によって、二回目となる「アドプト・リバー・竜仙峡の清掃活動」が行われました。令和4年春に安威川ダムの堤体が完成し、周辺整備事業が推進されるなか、ダムの上流部にあたる竜仙峡の豊かな自然環境を、みんなの力で守り継ぐための活動を実践していくことで、より多くの人たちへの周知を高め、地域づくりに向けて、関係人口を増やしていくための機会づくりを目的としています。



令和4年春、安威川ダムの堤体が完成し、ダムが貯水できる水位まで水を溜め、その後、平常時の水位まで調整を行う「試験湛水」が開始されます。安威川ダムファンづくり会・環境部会では、ダム周辺に生息する多様な動植物への配慮と保護を見据えて、実態調査・予測分析、およびデータベースづくりを行っています。また、天然記念物、絶滅危惧種、地域的な希少種をはじめ、過去に確認記録はあるが非常にまれな種などを中心に、生息エリアと生態的特徴をまとめたマニュアルを作成。ダム周辺の維持管理、環境保全に役立てていくことを目的としています。



マニュアルには、動植物への配慮、生態の保護をはじめ、下流部まで流れ落ちた個体の救助方法、レジャーやイベントなどの「人による負荷となる行為」への注意点、また、自然観察やフィールドワークにおける留意点なども記載されています。

安威川ダム「堤体盛立」が完了しました。

安威川ダムは、死傷者61名を含む甚大な水害となった1967年(昭和42年)7月の北摂豪雨災害を契機に計画を立案し、昭和63年国庫補助事業としての採択、平成11年には事業用地買収の開始、そして平成26年にダム建設工事の起工式をへて本格的な建設工事に着手し、基礎掘削、監査廊、洪水吐きなどの建設を進めてまいりました。この度、上流からの水をせき止めるダム本体である堤体の盛立が完了しました。今後は、ダムの周辺施設の整備を進め、令和4年春の試験湛水の実施を目指します。

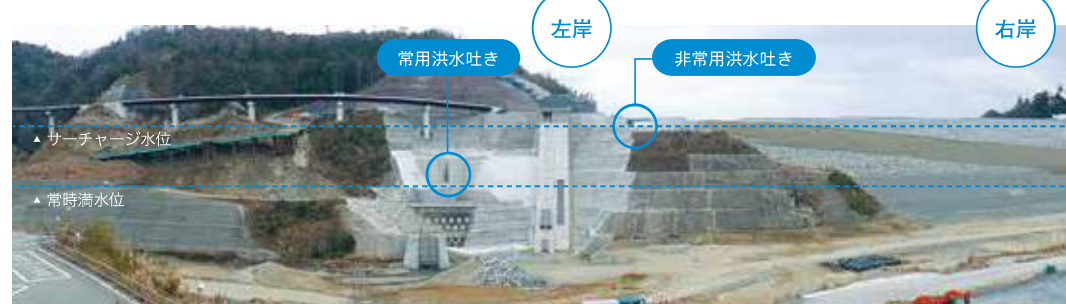
【下流側からの眺望】

▼令和4年1月5日 左岸天端仕上げ中



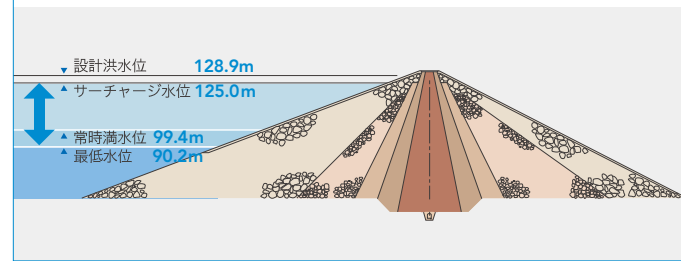
【上流側からの眺望】

▲令和3年12月



試験湛水とは

治水計画上の最高水位(サーチャージ水位)まで水を溜め、その後、普段の水位(常時満水位～最低水位)まで下降させ堤体や貯水池周辺斜面の健全性を確認する試験です。



ダム堤体盛立工事の推移

【堤体着工前】



▲平成26年7月

【基礎掘削～堤体盛立】



▲令和2年3月

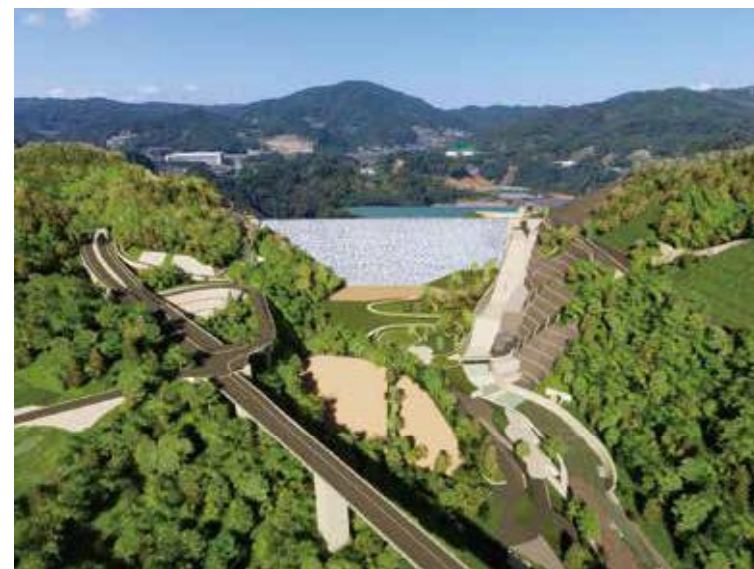
【堤体盛立中】



▲令和3年10月

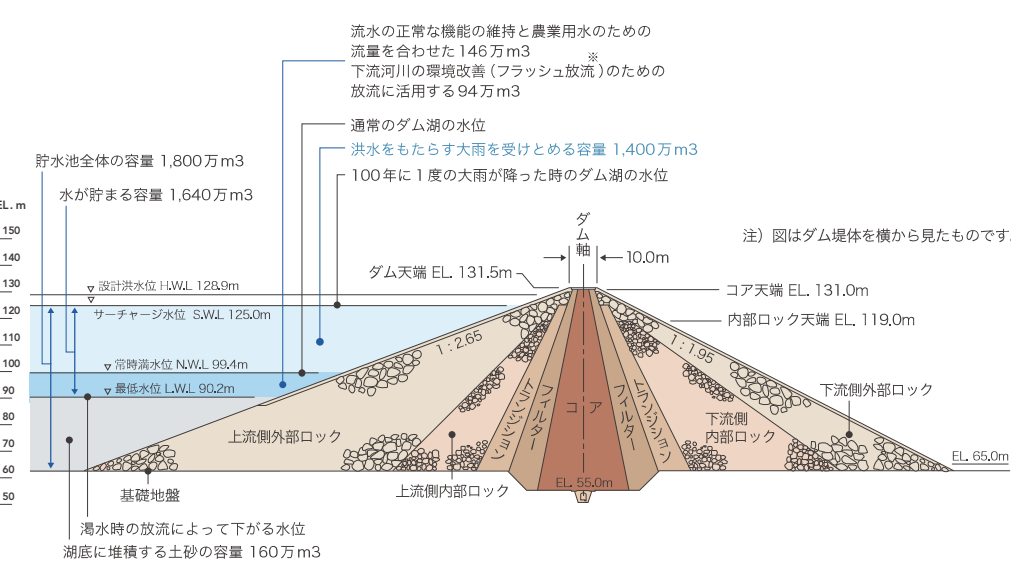
ダム完成予想図

ダム下流からの眺望



ダム標準断面図

安威川ダムは、中心に土でコアをつくり、外部に岩を積み上げてつくる、ロックフィルダムという工法を採用しています。



安威川ダムの機能と役割

【安威川ダムの洪水調節の仕組み】

安威川ダムは治水計画に基づき、100年に一度起こりうる想定される規模の大雨でも下流の河川を氾濫させない施設としてつくられています。ダムによる洪水調節は人による操作を行わず、貯水位に応じて洪水吐きから自然に流れていく「自然調節方式」を採用しています。

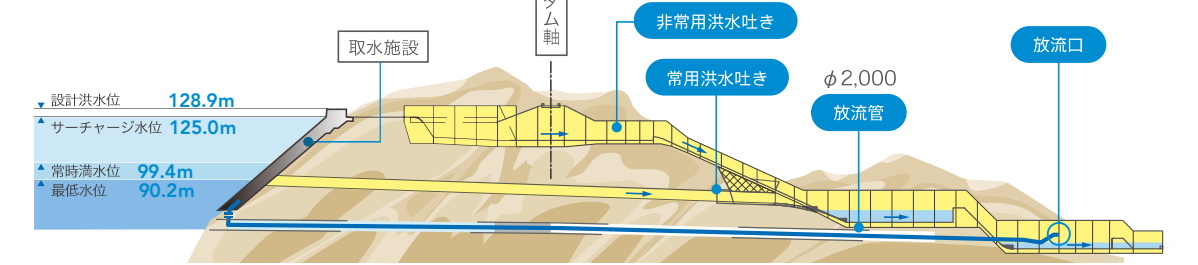
平常時

下流河川の維持のために必要な水の確保や、フラッシュ放流のための水を必要な分だけ、取水設備から取り込み放流管のルートで放流します。

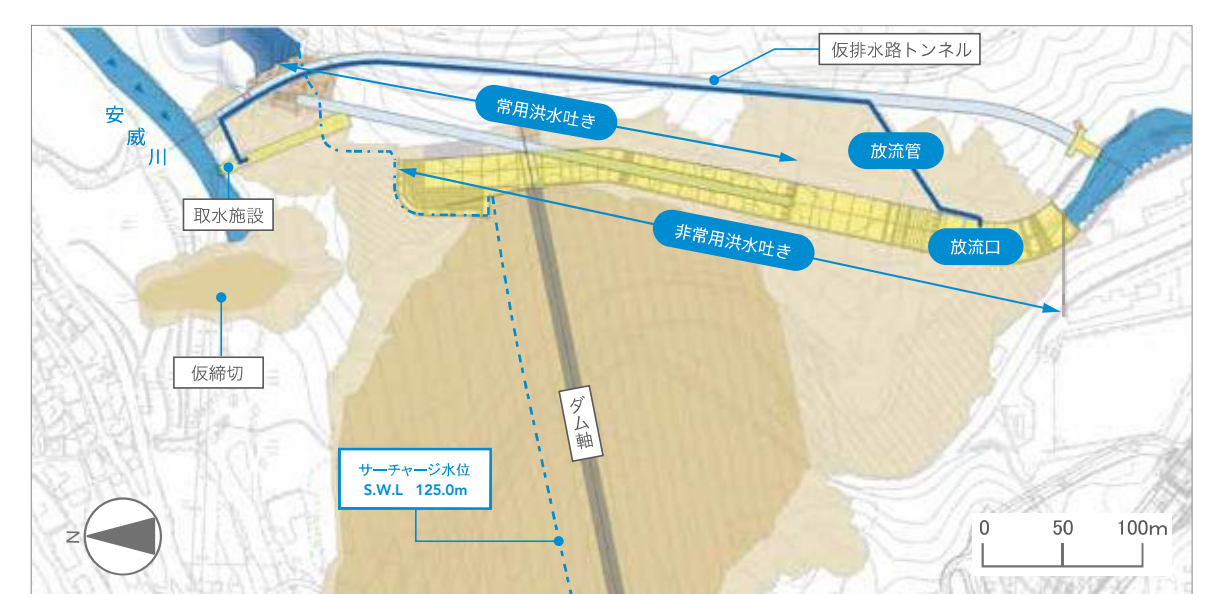
※フラッシュ放流

ダムは大きな出水を減らしますが、同時に日頃生じる小さな出水も減らしてしまうため、下流河川の環境が変わる懸念があります。ダムに貯めた水を放流することで人工的に下流の河川敷に水が被らない程度の出水を起こし、ダム建設による自然環境への影響を可能な限り緩和します。

●洪水吐き・放流管縦断面図



●洪水吐き・放流管俯瞰図



洪水時

洪水時の流出ルートは「常用洪水吐き」と「非常用洪水吐き」の2系統があります。

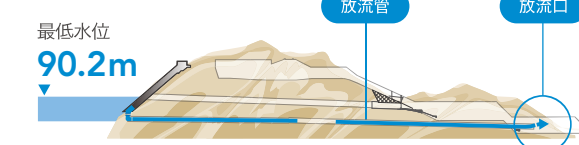
常用洪水吐き

常用洪水吐きはダムの治水計画の範囲内の降雨・出水があった場合、貯水池の水を安全に下流へ流す施設です。

非常用洪水吐き

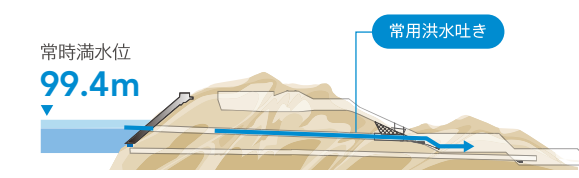
貯水池の水位がダムの高さを越えないように、ダムの治水計画を超える降雨・出水(超過洪水)があった場合でも、貯水池の水を下流に流すことができる施設です。

平常時



下流河川の維持に関する水をダムから放流
下流河川では大きな増水はなく、穏やかな流況。

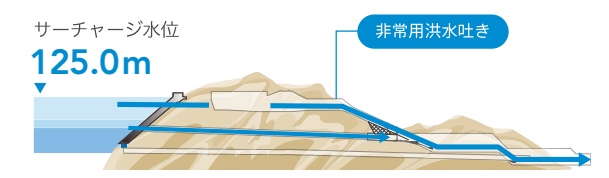
出水時



ダムの洪水調節機能を発揮し、下流への流出を制御
下流河川では増水は見られるものの氾濫の恐れなし。

治水計画上の最大降雨

※100年に一度の降雨
時間雨量:80mm程度 日雨量:250mm程度



ダムの洪水調節機能を最大限発揮し、下流への流出を大きく制御
下流河川はかなり増水となるが、氾濫はなし。

黄色着色箇所はダムができる以前の河川からの氾濫(道路側溝、下水施設等からの浸水は含まない)による浸水想定イメージであり、ダムができることで守られる区域。

茨木市では、ダム周辺の魅力向上と賑わいづくりを目的とした、安威川ダム周辺整備事業を推進しています。



整備コンセプト

AIGAWA DAM PARK
 未来につながる美しい自然、
 創造と交流の湖畔の里
 北摂の自然と人の織りなす美・自然と人の
 新たな調和を目指して

基本方針

- ダム及びダム湖を拠点に地域資源を活かして北摂のシンボル空間を創出します。
- 周辺環境の保全と地域資源の有効活用を適正に調和させます。
- 周辺整備は公共と民間の協調・協同で進めます。
- 公園施設の管理運営等を行うエリアマネジメント組織の運営等を行います。

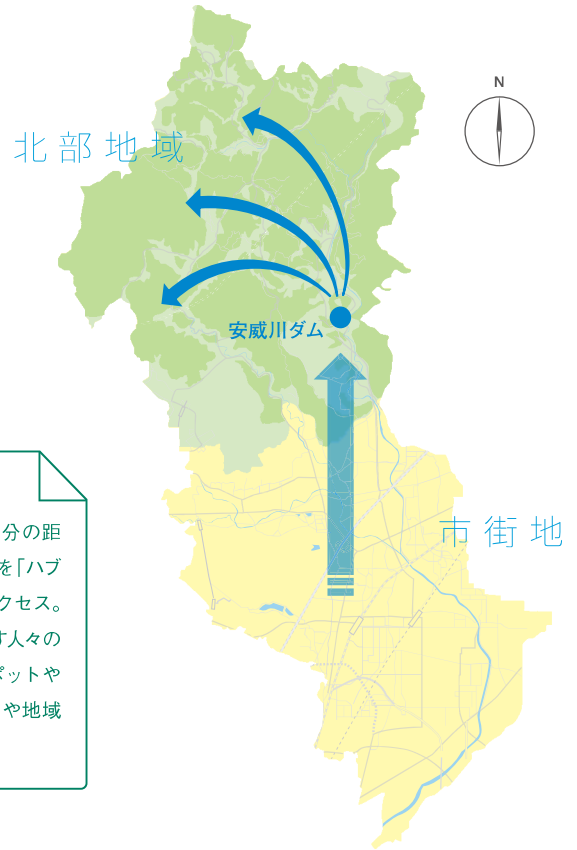
導入機能イメージ

- 1 ダム湖上流エリア**
 自然歩道や権内水路、下音羽川のせせらぎなど、自然豊かな空間と一体となった、落ち着きを感じられる環境が形成されています。水とみどりを生かした活用が想定されます。
- 2 ダム湖及びダム湖内平地エリア**
 安威川ダムが生み出す水辺の環境や、安威川の渓流環境が形成されています。水上アクティビティによる湖面利用が想定されます。
- 3 ダム湖上空エリア**
 ダム湖の上空を利用し、湖面の両岸を結び、ダム湖の眺望を生かしたアクティビティが体験できる機能を整備し、にぎわいを創出する場所の形成と観光振興を図ります。両岸を繋ぐ吊り橋(人道橋)の整備により、広大な湖面とみどり、ダム堤体と大阪市街を一望できるスポットとして期待できます。
- 4 ダム湖隣接平地エリア**
 府道茨木亀岡線沿いに立地し、ダム湖畔にも近い敷地を活用し、安威川ダム周辺の集客と地域振興の拠点となる機能を整備することで、市民の暮らしの満足度の向上と、新たな交流人口の拡大につなげる機会を創出します。また、府道に面するアクセスの良さを活かし、北部地域の拠点として、情報発信や市民活動等が可能となる拠点施設を整備する予定です。



山とまちをつなぐ「ハブ拠点」を目指して。

ダム周辺の魅力を向上させ、賑わいを創るため、茨木市では「安威川ダム周辺整備事業」による整備に取り組んでいます。その特筆すべき点は、公園などの公共施設と公園の魅力を高める民間施設の両方を、民間事業者が設置・運営する官民連携の事業であること。公共施設と民間施設を設計から運営まで同じ事業者グループが行うことで、より使いやすく魅力的な空間づくりが可能となります。具体的には、令和5年度末の公園等の一部供用開始に向け、公共施設としては事務室や研修室を併設した拠点施設、多目的広場・園路・湖面水際の親水施設などの公園施設を、民間施設としてはダム湖両岸を結ぶ吊り橋や飲食物販店などを整備していく予定です。さらに、茨木市、民間事業者、大阪府等が連携し、公園完成後も、地域のプロモーションやネットワークづくりなどの活動を推進します。



市街地から車で20～30分の距離に位置する安威川ダムを「ハブ拠点」とし、いばきたへアクセス。豊かな自然、里山で暮らす人々の営み、レジャー・観光スポットや施設など、いばきたの魅力や地域資源を活用。

安威川ダムの特長は、何と言ってもまちからのアクセスの良さ。市の中心部から車で20～30分程度、近隣の地域からなら歩いて行けるほどの場所に立地しています。これほど近くに近い場所にあるダムは全国的にも稀な存在と言えるでしょう。また、新名神高速道路の茨木千提寺ICにも近く、他府県からの集客も期待できます。このことから、茨木市では、北部地域「いばきた」の活性化と課題解決に向け、ダム周辺を「山とまちをつなぐハブ拠点」として位置付けました。いばきたで活動する団体や施設、事業者と連携してダム周辺地域で魅力を発信し、そこで生まれた賑わいをいばきた全体へ波及させ、さらなる魅力を創り出していくことを目指し、整備を進めています。



安威川ダム周辺整備事業を
 みんなで考え、実践する
 「安威川ダムを活かした
 公園づくりワークショップ」

安威川ダム周辺整備事業のファーストステップとして、茨木市では、「安威川ダムを活かした地域づくりワークショップ」に取り組んでいます。このワークショップでは、地域で実際に活動する意欲のある方を対象に参加者を募集。主にダム湖近隣で整備予定の公園について「やりたいこと」のアイデア出しを行うとともに、可能な範囲で設計に反映する予定です。参加者が公園の設計段階からワークショップを通じて事業に関わり、つながりあうことで、実用性が高く、魅力あふれる空間づくりが可能となるとともに、将来的にいばきた全体の活性化を担う「エリアマネジメント組織」で活動する人材・団体の育成につなげることをめざしています。全3回のワークショップには80人近くの方から応募があり、12月に開催した初回では、飲食やスポーツ、体験教室など、それぞれの得意分野を活かしたアイデアが多数提案されていました。来年度以降は、提案されたアイデアの中から実現性の高いものを社会実験として行い、今後の展開を検証する予定です。



- 令和3年12月18日
 (第1回) どんなことしたい？
- 令和4年1月30日
 (第2回) 公園の各ゾーンでやりたいコトを出し合おう！
- 令和4年3月12日
 (第3回) 実際の活動を考えよう！

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度以降
[目標] エリアマネジメント活動の内容と活動者の発掘 [取組内容] ・ファンづくり会との意見交換 ・ワークショップにおけるニーズの抽出	[目標] ワークショップで出た活動内容の実現可能性の見極め [取組内容] ・ワークショップや意見交換で出た活動内容の社会実験	[目標] 活動内容の決定と組織の編成 [取組内容] ・活動内容の決定とその活動を行うための組織編成に向けたワーキング	公園開設当初から エリアマネジメント活動についても 実行していく。

ダム周辺の未来を考える 「竜仙峡・アウトドアクッキング」。

ダム建設予定地の上流部に、清らかな溪流と深い木々に包まれた「竜仙峡」というエリアがあります。安威川ダムファンづくり会では、この恵まれた自然環境を、ダムの完成後においても守り継いでいき、次世代の地域資源として活用していくことができるよう、多分野の人たちや地元の方々が、さまざまな角度から検証と実践を続けています。「竜仙峡・アウトドアクッキング」は、北部地域で収穫されたお米や野菜をダッチオーブンでつくる料理、安威川上流漁業協同組合に提供していただくアマゴの塩焼きを美味しくいただきながら、みんなで地域の未来を考える機会づくりを行っています。



2021年12月に行われた「竜仙峡・アウトドアクッキング」。2018年からスタートし、年に一度、継続的に実施しています。

安威川ダムカードを集めてみませんか？

【安威川ダムカード】

ダムのPRを目的として、全国のダム約500ヶ所で発行されるダムの紹介カード。安威川ダムでは現在、「建設中Ver.3.0」を配布しています。工事の進捗にあわせて、今後様々なバージョンのカードが登場する予定です。



配布場所：

安威川ダム建設事務所（茨木保健所4階）
安威川ダム情報交流センター（茨木保健所5階）

【安威川ダムカレーカード】

ダムの堤体や緑豊かな里山など、安威川ダムやダム周辺の自然をイメージしてつくられた「安威川ダムカレー」。安威川ダムカレーは茨木市内の店舗で販売しています。ご注文の方にもれなくお渡ししています。



配布場所：

中国料理 雁飯店/レストランさくら/Mariana CAFE/招福堂/タシモリカレー / 忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘 kappo 燈々庵 / cafe D / 天婦羅の天升/カストリーレストラン/料理屋はなせ/カフェレカ (R4.1現在休止中)

安威川ダムカレーを食べに行こう。

安威川ダムのPRの一環として、安威川ダムに見立てた「安威川ダムカレー」を茨木市観光協会と茨木市が共に開発しました。茨木市内の飲食店などで販売しています。

ご注文の方には、もれなく「安威川ダムカレーカード」が付いてきます！



茨木市忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘 ver.2



カストリーレストラン ver.



料理屋はなせ ver.



Mariana CAFE ver.



レストランさくら ver.



招福堂 ver.



タシモリカレー ver.



cafe D ver.



中国料理雁飯店 ver.



天婦羅の天升 ver.

INFORMATION

ダム建設現場を一望できる「安威川ダム展望広場」。

令和4年1月、上流からの水をせき止めるダム本体である堤体盛立が完了しました。今後は、ダムが貯水できる限界の水位まで水を溜め、その後、普段の水位まで調整し、問題が生じないかを確認するための「試験湛水」を行っていきます。このような、ダム建設現場の様子を、高台から間近に一望できる「安威川ダム展望広場」に、是非お立ち寄りください。

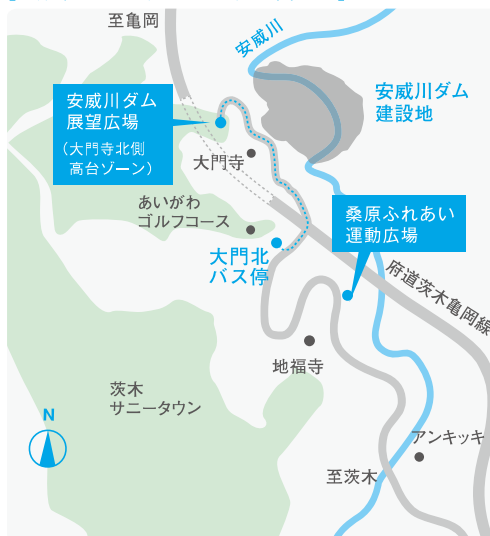


マイダムカードをつくることのできるダムフォトフレーム。

安威川ダム展望広場には、日々景色が変わるダム建設現場を背景に、自分だけのマイダムカードをつくることのできるフォトフレームを設置しています。ダムの見学と併せて、安威川ダムオリジナル・フォトフレームをお楽しみください。



【安威川ダム展望広場 所在地】



安威川ダム展望広場は、安威川ダム建設地すぐ近くの、大門寺北側高台ゾーンにあります。

【阪急茨木市駅から】
西口ロータリーから阪急バス「車作」行に乗車、「大門北」停留所にて下車。停留所から徒歩10分程度です。

安威川ダム展望広場

場 所：茨木市大字大門寺97
大門寺北側高台ゾーン
開放時間：毎日 9:00～16:00

問合せ/安威川ダムJV工事事務所
TEL：072-648-5464

【安威川ダム資料館】閉館のお知らせ

安威川ダムの事業や役割を広く知っていただく場として開設していた「安威川ダム資料館」は、令和3年6月10日をもって閉館しました。「安威川ダム展望広場」は、引き続きご利用いただけます。



ダム周辺の巨大ジオラマや、ダムの立体模型を観に行こう！

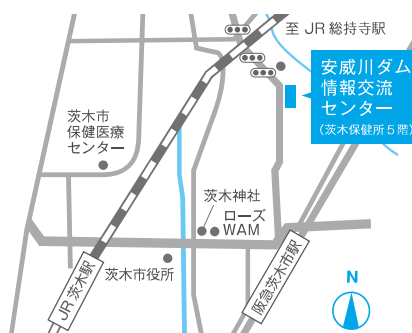
安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。

センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やパース、パネルの展示、パンフレットの配布、ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。

自由に見学・閲覧できますので、皆さんぜひお越しください。

安威川ダムファンづくり会からのお知らせ

ファンづくり会では、部会の活動に参加してくれる方を募集しています。詳しくは下記をご覧ください。



安威川ダム情報交流センター

場 所：茨木市大住町 8-11
開館時間：平日 10:00～16:00

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館しています。

<車でお越しの方>

国道171号西河原西交差点を南に下ってJR線高架下を通過した2つ目の信号を過ぎた左側にあります。

<電車でお越しの方>

阪急茨木市駅（北口）より北に向かって徒歩約10分。
JR総持寺駅（北口）より徒歩約10分。

※地下には駐車場がありますが、収容スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。